

デジタルトランスフォーメーション(DX)とは？

デジタルトランスフォーメーション(DX)とは、ICT技術の利活用を通じて業務の改善や新規ビジネスの創出をすることおよび、既存のビジネスとICTを組み合わせることで企業の価値向上を図ることです。

経産省によるDXの定義

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データやデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革すると共に、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

出典：経産省・DX推進ガイドライン

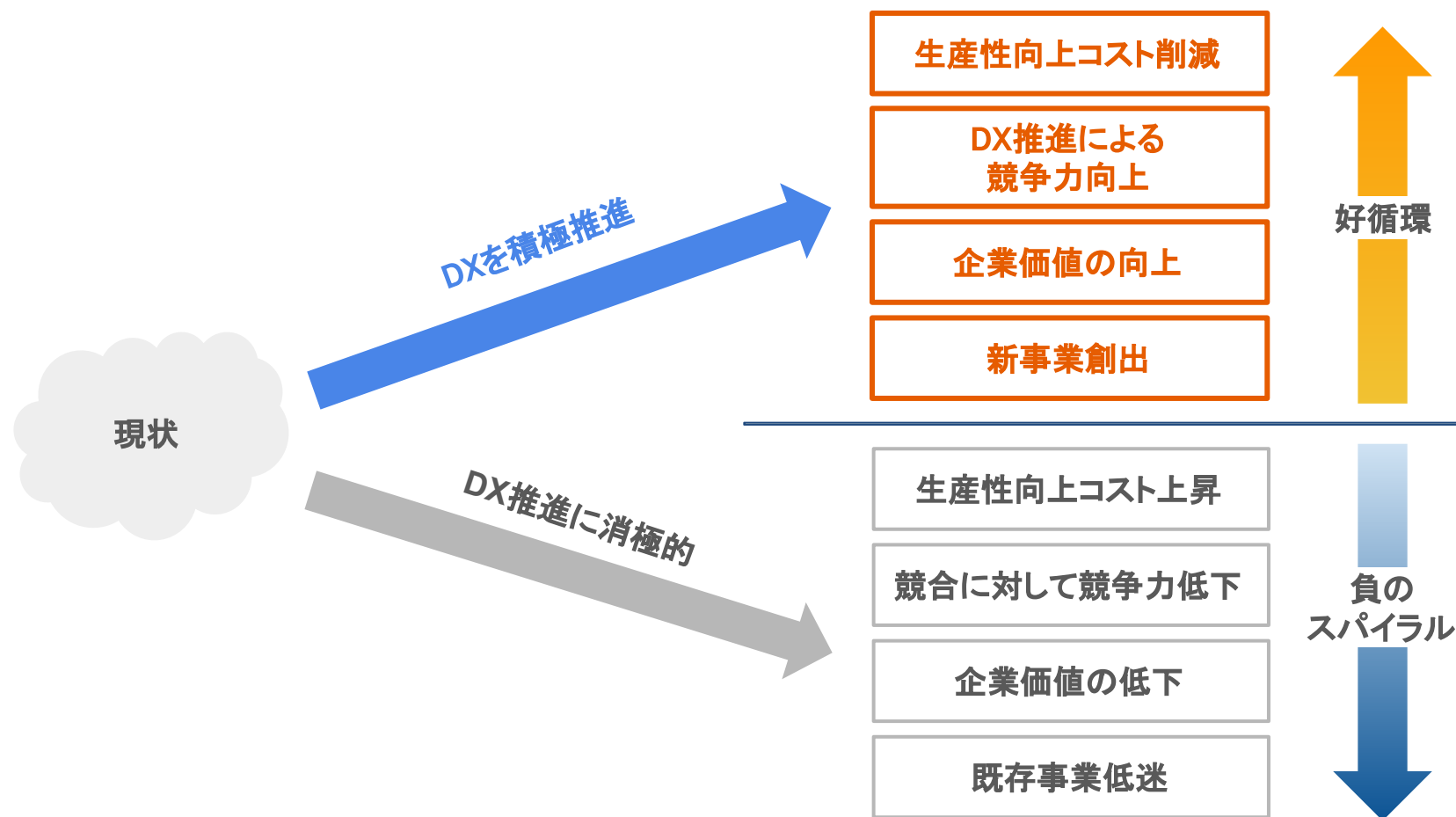
<https://www.meti.go.jp/press/2018/12/20181212004/20181212004-1.pdf>

つまり…

ICT(データやデジタル技術・通信技術)を利用して、**業務を改善したり、
新たなビジネスをバリューを伴う形で**生み出すこと。

DXを推進すべき理由

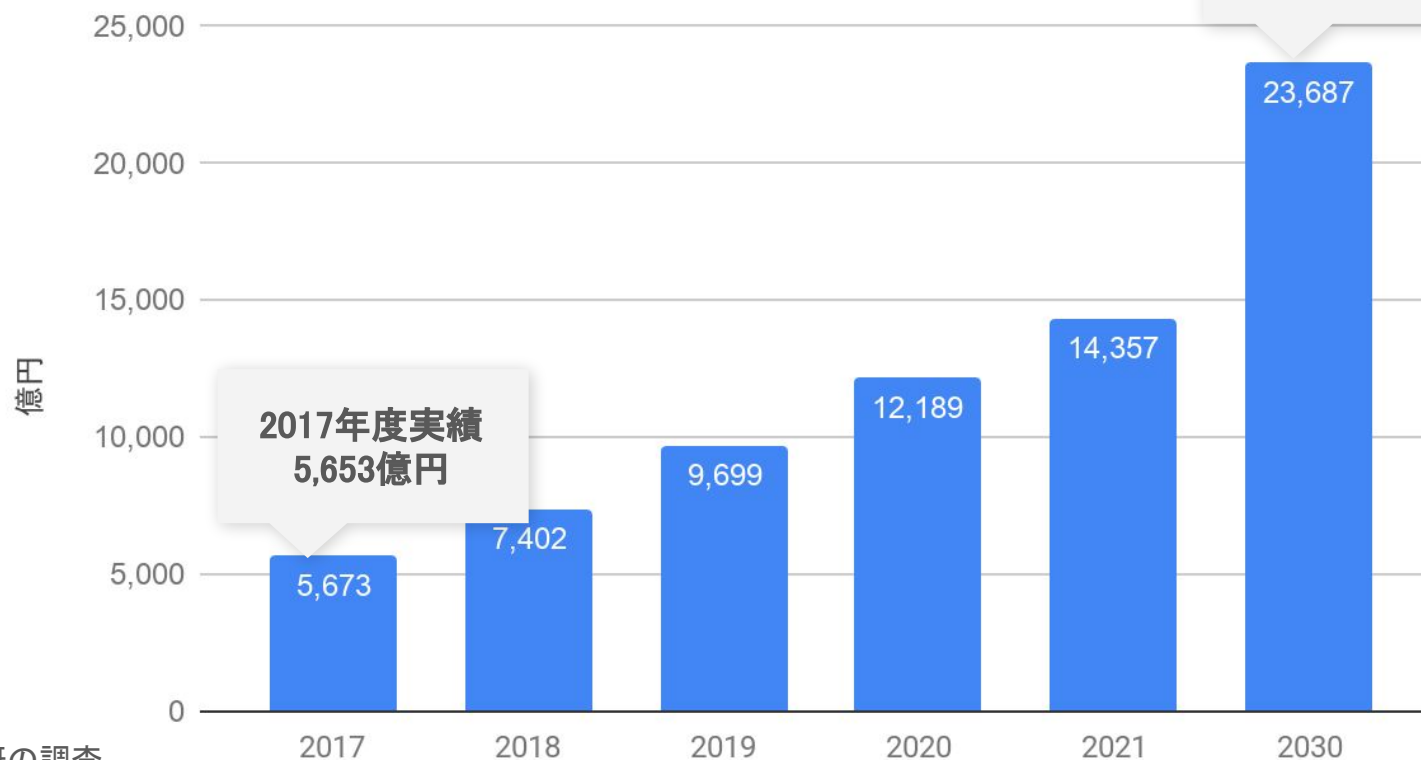
新型コロナ禍をはじめとするビジネス環境の変化が激しい現状で、企業活動の継続と企業価値を向上させるためには、柔軟でスピーディーなICT活用によるデジタルトランスフォーメーション(DX)が必ず必要になる時代が訪れます。



国内でのDX投資額の推移

市場調査によると、今後、多くの企業がDX投資を推進するとレポートされており、ビジネス競争に遅れを取らないためにも何が必要なのか考え始める必要があります。

国内DX投資額の推移



参考:富士キメラ総研の調査

<https://www.fcr.co.jp/pr/18075.htm>

DX推進におけるよくある問題

コンピュータによる業務システム構築が始まったころから言い続けられている攻めの事業部門と守りのIT部門というスタンスの違いはDX推進でも例外ではなく、結果的にその成果が限定的になりがちなため、この温度差を明確に理解しておく必要があります。



DXを語る事業部門

- PoC実現や特定業務での成果を上げられるようになった
- 企業の将来のために少ないリスクでチャレンジしたい＝新しい成果が必要



現実を語るIT部門

- 既存システムの維持と保守に資金と人材が割かれている
- 「何も起きない」が当たり前＝既存システムは捨てることができない



会社全体がどうあるべきかが重要

新技術を積極活用する
DXの推進

&

既存システムを含めた
DXの底上げ